

中医美容の概念と実際

日本中医学会 評議員 一般社団法人 日本美容鍼灸協会 代表理事 北川 毅

中国の伝統医学と美容

中医学が、今、意外な専門分野で注目を浴びている。その専門分野とは人の美しさの維持・増進を目的とする「美容」の分野である。

近年、中医学には、美容を専門に取り扱う中医学の専門科目として「中医美容学」という科目が確立された。中医美容学では、「美」は心身の健康を基礎として成立するものであり、中医美容学の目的は「健美」を達成することであるとされている。「健美」とは「健康を基礎として成立する人体美」という意味である。世界的に自然指向、健康指向が高まるなか、日本や中国のみならず、世界各地の美容業界において、今、「中医美容」と「健美」という概念に対する関心が高まり始めている。

美容とは、人体の外見美に対する評価を向上させることを目的として、顔や体形を美しく整えることである。日本や欧米では、「美容」と「医療」はそれぞれ異なる分野として区別される場合が多い。そして、医療の分野では、医療人が美容に携わることが蔑視される風潮もあるようだ。しかし、「美容」と「医療」の2つの分野は、果たして無関係な分野として切り分けられるのであろうか。中医学の発祥地である中国では、古来より、装飾美容以外の美容は医療の一環として位置づけられ、医家によって実践されてきた。

装飾美容とは、毛髪に手を加えたり、顔面部に化粧品類を塗布するなどの方法によって、人体に装飾を施すことによる美容の手法である。一方、美容を目的として、顔面部の皮膚の状態を改善したり（美顔）、外見的な老化を予防したり（アンチエイジング）、体形を美しく整えたりすることは、装飾を施すことによる美容ではなく、人体の健康状態を維持、増進することによって実現される。そのため、中国には、古来より「健やかな身体は美しい」「人間の美は健康を基礎として成り立つものである」という思想が存在し、「美容」と「健康」「長寿」「養生」などの概念は、相互に密接に関係していると考えられてきた。そして、そのために、美容は伝統医学の一環として実践され発展してきた。

中国の伝統医学には2000年以上の歴史があり、その発展過程においては、鍼灸・推拿・中薬・食療・気功などの特有の治療法が確立され、また数々の名医が輩出された。そして、これらの伝統医学の治療法は美容にも応用され、歴代の名医たちが編纂した医学文献には、疾患の治療を目的とした治療処方ばかりでなく、美容に関する記載も少なからず存在する。また、中国の古典的な医学文献には、宮廷において、時の権力者の妻妾たちのために考案された洗顔剤、美容クリーム、パックなどの美容処方や美容法に関する記載も見ることができる。例えば、世界

の三大美女と唱われた楊貴妃などの宮廷の麗人たちが用いた美容処方や美容法に関する貴重な情報が、医学文献の記載によって現代まで残されているのである。

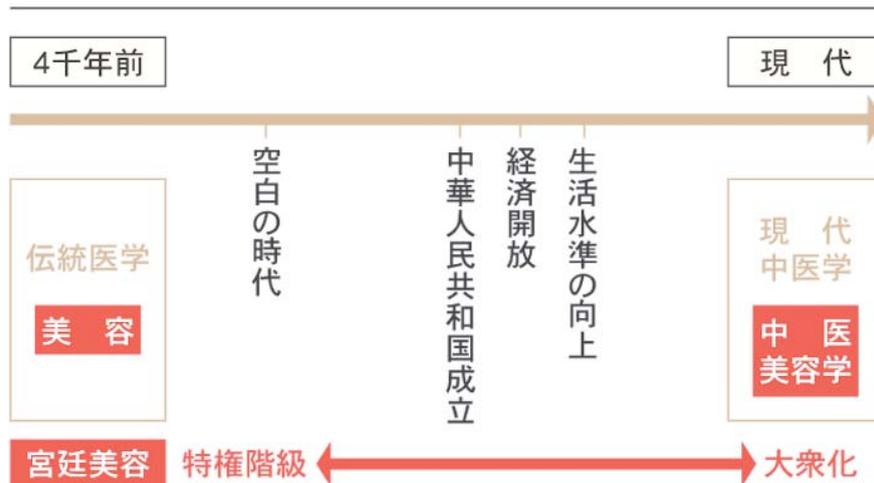
宮廷において実践された美容もまた伝統医学の知識と技術によるものであり、現代では「宮廷美容」と呼ばれている。中国の歴史において、装飾以外の美容は、このように伝統医学の一環として実践され発展を遂げてきた。長い歴史を有する中国の伝統医学は、医療ばかりでなく、美容に関する知識と技術の宝庫であるといえるのだ。

近代の中国と美容

中国における美容の歴史は長く、伝統医学の一環として発展を遂げてきた。しかし、近代における中国の美容の歴史には、長い空白の時代が存在する。中華人民共和国が建国されるまでの中国では、一般大衆の生活水準が高くなかったことから、美容は一部の特権階級の人々しか利用することができなかった。そして、そのために、中国の美容に関する豊富な知識や経験は、この時代の時代背景によって埋没した。近代の中国において、美容の需要と市場が発展し始めたのは、中華人民共和国の建国以降のことである。

中華人民共和国が建国され、経済開放政策が打ち出されると、中国国民の生産力が高まり、都市部における一般大衆の生活水準も向上した。そして、このような社会情勢の変化に伴い、消費物資にも恵まれるようになったことで、一般大衆の美容に対する関心と需要は急激に拡大した。1980年代より、中国では美容に関するサービス業務が商業目的で行われるようになり、1990年代には、エステティックサロンや美容サロンも登場した。近代の中国では、美容はこの時期を迎えてようやく一般大衆のものとなったのである。

中医美容発展の歴史



長い歴史を持つ中医美容は、紆余曲折を経て現代社会の中で復活していく

中国の美容産業は、当初は主としてヨーロッパのエステティックや日本の化粧品関連の企業や専門家による海外からの知識や技術を牽引力として発展したが、次第に数千年もの歴史の中で培われていながら、長い間埋没し続けていた自国の伝統的な美容法にも目が向けられるようになった。こうして、伝統医学とともに発展した固有の美容に関する知識や技術は、近代の一般社会において再び求められるようになったのである。

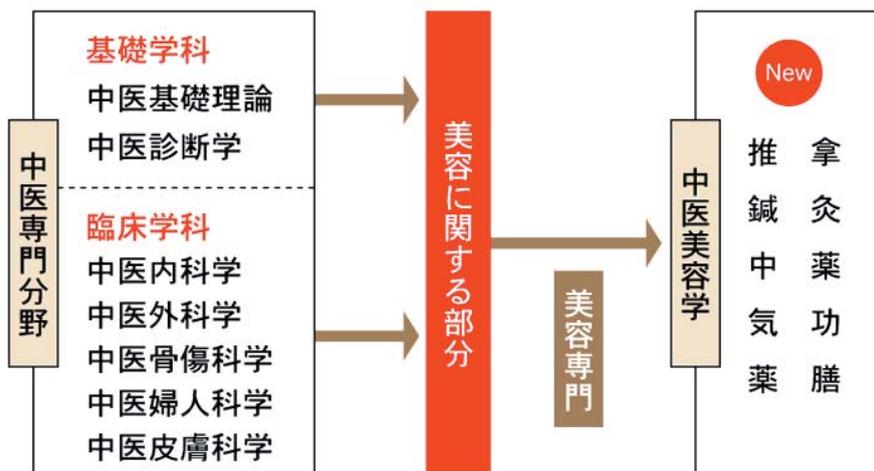
中医美容学の確立

近代の中国において、美容に対する需要が高まり始めると、「皮膚美容」「針灸美容」「中薬美容」「気功美容」などの新しい美容の分野が、中医学を基礎として、次々と自然発生的に派生した。そして、美容に対する需要が拡大するにつれ、断片的に発生したこれらの新しい分野は、美容という共通の目的によって集約され、「中医美容」という概念が生まれた。

中医学は、人体や疾患の本態を研究し、疾患の予防と治療、健康の維持を目的とする医学である。中医学には、「中医基礎理論」「中医診断学」「中薬学」「方剂学」「経絡学」「腧穴学」「中医養生学」などの基礎科目、「中医内科学」「中医皮膚科学」「中医婦科学」「中医眼科学」などの臨床科目が存在し、「鍼灸」「推拿」「中薬」「気功」「食療」などの治療法が用いられる。中医美容学は、中国の一般社会において、従来には存在しなかった美容という需要が生まれたことで、中医学の各臨床科目の美容に関連する要素が分化し、集約されて成立した美容の専門分野である。

中医学の一専門領域であることから、中医美容では、中医学の各臨床科目と同様に、上記のような中医学の基礎科目を基礎に置き、「鍼灸」「推拿」「中薬」「気功」「食療」などの治療法が応用される。例えば、一般ににきびや吹き出物と呼

中医美容学の体系



「中医美容学」は、近年になって成立した比較的に新しい学科である

ばれる尋常性痤瘡は、容姿を損なう疾患であることから、治療に対する患者の動機は、健康状態の回復ではなく容姿の回復（美容）であり、中医美容の分野で取り扱われる。そして、尋常性痤瘡の原因には、月経や便秘などが関係する場合も少なくないことから、その治療には、皮膚科ばかりでなく、婦科や内科の知識や経験も必要とされ、中薬の内服・外用、鍼灸、食療などの治療法が必要に応じて用いられる。このように、中医美容学は、人体の自然美の維持、増進と容姿に悪影響を及ぼす疾患の治療を目的として、基礎理論・臨床論・治療法などの中医学におけるさまざまな知識・技術・経験が集約された中医学の総合的な美容の専門科目である。

中医学において「中医美容学」という科目が確立されたことで、中国の伝統医学の歴史のなかで培われた美容に関する知識と手法は、近代において、中医学の一つの「専門学科」として生まれ変わった。中国において、美容は伝統医学の歴史とともに発展してきたことから、中医美容学は悠久の歴史を有する古典的な学問であるといえる。しかし、一方では、現代中医学の専門科目としての中医美容学は、経済開放政策以降に確立された新しい実用科目であることから、まだ発展段階の部分が多いというのが現状である。そして、現時点では、中国においても日本においても、まだ臨床現場における中医美容の普及率も高くない。しかし、美容に対する社会的な需要が急激に高まったことで、1980年代以降の中国では、中医美容は国家事業として推進され、中医美容学に関する教育も積極的に行われるようになった。中国の主要都市の中医医院では、続々と美容科が開設され、伝統医学の理論と技術を駆使した化粧品や美容機器なども開発されている。また、中医薬大学や中医学院では中医美容の教育を希望する学生が増え、中医美容学を選択科目として開講する教育機関も増えている。2002年には、中医薬大学などで使用される「全国高等医薬院校教材」として「中医美容学」（人民衛生出版社）も編纂された。

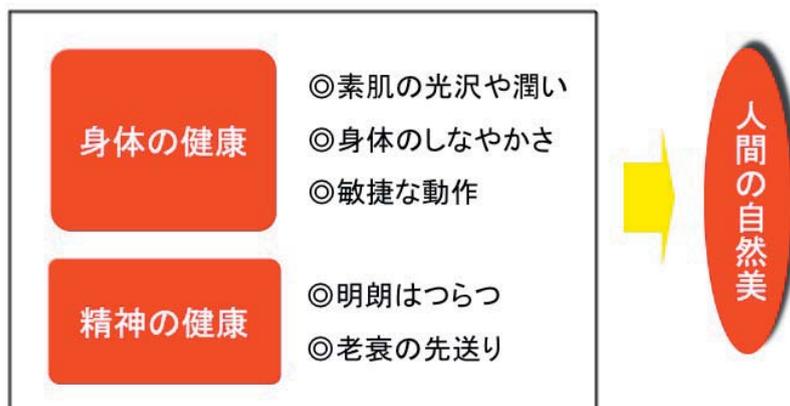
中医美容学の定義と目的

中国で出版されている『中医美容学』（人民衛生出版社）では、中医美容学の定義について次のように述べられている。

「人体の健康美を対象とし、多くの基礎学科および臨床学科の相互の交叉によって成立した新興中医学科である。その役割は、中医理論および中国の特徴的な人体美学理論の指導に基づき、損容性疾患の予防と治療の研究であり、美容を損なう生理的な欠陥を矯正し、あるいは覆い隠し、抗老衰、駐顔の方法を探究することであり、人体の形態美と体魄美を維持することを指す」。

「損容性疾患」とは、尋常性痤瘡や円形性脱毛症など、人体の生理機能に重篤な影響を与えることはない一方で、人目につきやすい部位に発症して容姿に悪影響を与えることを特徴とする疾患の総称であり、「駐顔」とは顔面部の若さと健康状態を保持することである。また、中医美容学では、上記のように、「形態美」と「体魄美」という言葉を用いて人間の美しさを表現している。「体魄美」とは「人体の機能的な美しさ」と「精神の美しさ」という意味で、中医美容が外見の形態的な美しさばかりでなく、人間の機能的な美しさや精神的な美しさも追求してい

健美



ることを示している。

中医美容学の目的は、「健美」を追求することであるとされている。「健美」とは「健康を基礎として成り立つ人間の自然美」という意味であり、精神的にも肉体的にも健全な状態を反映した人体の自然美を意味している。そして、そのために、中医美容は、顔面部などの限定的な局所だけを対象とするのではなく、顔面部、毛髪、体幹部、四肢などの人体の全身を対象とする。

中医学における健康と美

中医学理論の基礎として位置づけられる「陰陽五行学説」では、自然界に存在するすべての事象は、「陰」と「陽」の相互関係（対立、互根、消長、転化）によって成立していると認識されており、同時にすべての事象は「陰」と「陽」のいずれかに分類される。陰陽五行学説では、目に見える物質的なものは「陰」、目に見えない機能的なものは「陽」に帰属され、人体においては、肉体（物質）は陰、生理活動（機能）は陽に帰属する。そして、人体の生理機能（陽）は、臓腑や器官などの物質（陰）の運動によって正常に営まれ、同時に、臓腑や器官の運動は、生理活動が正常に行われることで維持される。小宇宙としての人体の生命活動は、陰陽の相互関係によって維持されており、物質の存在がなければ人体の機能は存在せず、機能がなければ物質としての人体も存在することができないということである。

一方、「健康」とは人体の「機能」の質に対する評価であり、「美」とは「物質」としての人体の質に対する外見的な評価である。したがって、中医学の理論では、人間の健康状態は外見に反映され、外見美が損なわれている場合には、健康状態に何らかの問題があるものと判断される。自然界の森羅万象は陰と陽から成り立つものであるという陰陽学説の立場では、人間の自然美という概念も例外では

なく、美と健康は根本を同じくし、「美は健康、健康は美」であると認識される。そして、そのために、中医美容学では、「人間の自然美は健康を基礎として成立するものである」と考えられており、中医美容学の目的は「健美」を追求することであると認識されているのである。

中医美容学が認識する「健美」という概念は、中医学の理論の根本である陰陽五行学説の思想を反映した「美」と「健康」に対する認識である。また、「形態美」と「体魄美」という概念では、「形態美」は陰(物質的な美しさ)に帰属し、「体魄美」は陽(機能的な美しさ)に帰属する。人間の美は陰と陽の2つの要素から成り立ち、また、2つの要素に分類されるということである。中医美容学は、人間の美を、物質面からだけではなく、機能面や精神面からも追求しているのである。

(つづく)

プロフィール

北川 毅 (きたがわ・たけし)



●現職

日本中医学会 評議員, 一般社団法人 日本美容鍼灸協会代表理事
日本健康美容鍼灸研究会 会長, 鈴鹿医療科学大学鍼灸学部非常勤講師 (美容鍼灸学), 東洋医療専門学校 特別顧問, トライデントスポーツ医療看護専門学校はり・きゅう学科 顧問, YOJO SPA オーナー

東京・港区の YOJO SPA にて鍼灸治療と美容鍼灸の施術を実践するかたわら、鍼灸、美容、スパに関する教育、講演、執筆、翻訳、研究まで、幅広く活動中。

●著書・監修・翻訳

「健康で美しくなる美容鍼灸」(BAB ジャパン)

「DVD 美容鍼灸の実践」(医道の日本社)

「中医学 美養生ダイエット」(新潮社)

「きれい&元気になるツボ」(池田書店)

「The SPA 健康と美容のためのスパトリートメントガイド」(フレグランスジャーナル社)

「デイスパ開業マニュアル」(フレグランスジャーナル社) など